

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 3 月 9 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	371503122		
法人名	ゆうゆう株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう神谷川		
所在地	広島県福山市新市町大字新市258番地2		
	電話番号	0847-54-1855	
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 4 日	評価結果市町村受理日	平成 29 年 3 月 20 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 29 年 2 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームゆうゆう神谷川では、「役割を持って楽しく過ごせるグループホーム」を理念とさせて頂いております。入居者様一人ひとりが出来ることを役割として行って頂き、潜在能力を活かすとともに、役に立っていると思えることで、生きがいに繋がるようにサポートさせて頂いております。入居者様が自宅で行っていた習慣も大切にし、一緒に散歩へ出かけたり、自宅近所の神社へお参りに行くなど行っております。また、春には花見、夏には地域の夏祭り、秋には紅葉を観に出かけ、冬には餅つきと季節感を感じると共に屋外へ出ることで、五感で感じる部分も大切にしていきたいと思っております。ゆうゆう神谷川・せせらぎの全事業所で協力し、春と秋に地域の方々や、家族をお呼びして合同食事を毎年開催しており、皆様に喜んで頂いております。庭では犬やウサギ、カモを飼育しており、動物とのふれあいも行うことができます。入居者様にとって『自宅』と思っただけのよう努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

近隣には行政機関(支所、公民館、歴史資料館、小学校等)があり、色々な行事に参加する事で、地域の方々との触れ合う機会が多くある。また、同法人の小規模多機能事業所が併設されていて、合同の食事を年2回開催し、地域の方、利用者、家族等、多くの参加が得られ、毎年恒例行事となっていて、皆さん楽しみにされている。その中での交流が年々深まり、地域の一員として理解が得られ地域行事の夏祭りのイベントでは出店もされている。また、近隣の保育所の餅つき大会へも出かけ、子供達との交流も図られ元気ももらっている。ケア面に於いても個々の生活歴を大切に考えられ、思いを引き出す取り組みをされ、常に寄り添い、自分らしく、生きがいを持って生活ができる様、理念に沿った支援を心掛けている。医療面も医療機関、訪問看護との連携が構築され安心である。庭も広く、犬やカモ、ウサギを飼育し、アニマルセラピーに繋がられていると共に外出支援も多く持ち、楽しみごとや気晴らし、五感刺激となる様、個々の希望で出かけ、多くの思い出づくりとなる支援をされている。特にホーム長、職員の思いである大家族の様に信頼関係を築き、馴染みの場所で穏やかに安心して過ごしてもらえよう取組まれ、今では地域に根づいた事業所となっている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作り、掲示している。	法人理念は毎朝礼時、唱和し、振り返る機会としている。又、独自の理念「役割を持って楽しく過ごせるグループホーム」は見え易い場所に掲示し会議で周知し、全職員が共有され、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや、保育所での餅つき行事等に積極的に参加している。又日々、入居者様と地域を散歩している。	年2回合同食事会を開催され、多くの参加が得られ、毎年恒例となっている。また、保育所の餅つき大会や地域の夏祭りへの参加、チャレンジウイーク、ボランティア等の受け入れも積極的に行い交流の場を多く持たれている。散歩は日課とし挨拶を交わす事で顔見知りの関係となり、今では地域の一員として交流が日々深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会活動や地域行事に参加し、認知症の勉強会等の派遣講師が出来ることをアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、参考意見を取り入れている。	家族、自治会長、民生委員、行政、包括支援センター等の参加の下、定期的開催し、現状を多岐にわたり報告され、意見交換の場とし、情報や立場の異なった方の意見を得、サービス向上に活かしている。時には勉強会となる場合もあり有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や支所会議などで、意見交換や情報交換を行い、協力関係を築いている。	疑問に思う事があれば即出向き相談し、助言を得ている。支所も近隣にあり何でも相談できる。包括支援センターの勉強会が月1回あり参加する事で情報等も得られ協力関係が築かれている。又、行政担当者が定期的に訪問されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、業務へ活かしている。	身体拘束はしない。見守り中心で対応している。法人全体の研修や内部研修を定期的実施し全職員理解されている。やむを得ず、リスクが生じた場合は工夫を行うと共に毎週カンファレンスを実施し排除に向けた取組をする方針である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を行い、業務へ活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体で学ぶ機会を持つことが、なかなか出来ていないが、権利擁護に関する制度について全体で勉強していかなくてはならないと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明、話し合いの場を設け、意見を聞き、疑問や不安を解消し、理解をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、家族会や面会時などに積極的に話をしている。	訪問時や家族会、行事等で何気ない雑談の中から思い等を把握している。訪問出来ない家族には定期的に電話で聞くように努めている。又、利用者担当が家族との連携を取り意向の把握に努めている。その中で意見等は反映させると共に個々に対応している。また、年3～4回ホーム便りを送付し現状を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りや個人面談などで、意見を聞いている。	会議や申し送りの際等で提案や意見を聞く様努めている。職員間の連携が図られている為気軽に意見も出る。意見によっては会議で検討する事もある。職員の意見は大事にされ反映させている。個別面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を活用し、個々の適切な評価に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修や、事業所内の研修を開催している。また、資格取得も会社の援助がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議、支所会議に参加し、情報交換に努めている。また、グループホーム相互研修に参加し、他事業所から学ぶ機会をもった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様と馴染みの関係を築けるよう努力しており、入居者様の話がゆっくりと聞けるよう、毎日ゆったりとした時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、入所後も家族様・本人様の意見などを積極的に聞き、不安のない関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当に必要なサービスや本人様・家族が求めているサービスが何かを見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の立場でケアを行い、楽しく共同生活が出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会が出来る環境をつくり、家族様と協力しながら、共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活暦を参考にし、また現在の思いを実現できるようケアに努めている。	希望で自宅近くの神社へお参りしたり、自宅周辺をドライブに行く事もある。知人や親戚、孫やひ孫さん達も来られる。常に馴染の関係が継続出来る様柔軟な支援に取り組まれている。自宅に宿泊したり、日帰りで帰られる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	買い物や外出、その他の行事を皆で楽しめるようケアし、また日常での共通の趣味などを見つけ、入居者同士が自然に関わりあえる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困ったときなど、その他相談等に対して受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の生活に沿った生活を、入居後も実現できるように、希望がかなえられるよう努めている。	日々の会話や個別対応時、また、生活歴から把握し、職員で検討し可能な限り思いに沿うよう努めている。表出困難な方は表情や行動、家族への聞き取り等から判断している。個々の利用者の思いは申し送りノートに記載し共有し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活歴や意見、要望を聞き取りサービスに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の日課をたて、また朝・夕の申し送りで職員全員が状態を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやミーティングなどで意見を聞き、サービス向上に努めている。	アセスメントや医師の所見、本人、家族の意向、申し送り時の職員の意見を基にカンファレンスや担当者会議で検討し作成している。モニタリングや見直しも定期的に行い現状に沿った介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りファイルや朝・夕の申し送り等で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時代の流れや入居者様の状態の変化に対応できるよう、柔軟なサービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩や買い物などを通じて関係を深めていき、地域全体で支援していただける環境づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医師と連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の往診が月2回、訪問歯科支援もある。かかりつけ医の通院は基本家族対応であるが、状況により柔軟に支援している。結果については電話等で家族に報告し共有している。全職員にも周知し安全面に配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化などがあれば、すぐに報告・相談できる環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や地域連携室と連携し、家族と話し合いながら最善を尽くしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・入退院時や状態に大きな変化があった際に、その都度、重度化した場合における家族様の意向を聞き、その意向に沿えるよう、医師・看護師等と連携をとっている。	利用開始時、重度化や終末期については指針を基に説明している。変化が起きた場合は主治医から家族に説明され、家族の思いをその都度確認しながら、意向に沿う様努め、家族や主治医、訪問看護との連携を取りチームで支援されている。看取り後は反省会をし課題の検討をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル等で備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や地域の防災訓練、市の消防訓練大会に参加し、技術や知識を勉強している。	夜間、日中を想定し、通報、消火、避難方法等の訓練を年2回している。避難場所の確認も周知されている。地域の防災訓練や消防大会にも参加し勉強されている。地域の方の参加も得られ、協力が得られるよう取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当たり前のことではあるが、声かけの言葉使い、ドアのノックなど個人を尊重した対応を心がけている。	法人全体の研修や内部研修を重ね個々の尊厳を大切に声かけや対応に心掛ける様周知している。入室時にはドアノック、声かけをすると共に排せつ時、入浴時にもプライバシーを損ねない様気をつけている。気付いた時には職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや、希望が叶えられるよう、常に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の生活習慣やペースに合わせた日課表をつくり、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の好みを尊重し、その人らしい身だしなみを心がけている。また、好みのものを買い物に行ったりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、年末年始と日曜日以外昼・夕と厨房より配達をしてもらっている。お味噌汁・米を炊くという作業は職員と入居者様で行っている。お味噌汁は出汁を撮るところから行っている。また配膳・下膳は入居者様が積極的に行われている。	法人本部の厨房からの配食となっている。カロリー計算されたバランスのとれたメニューで食をそそる盛り付けとなっている。力量により出来る事はしてもらっている(下膳等)。また、職員も同じ物を食べながら食を促す声かけや支援をされ、楽しみの食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	上記同様で厨房より配達をもらっているの、栄養バランスはもちろん、色合いも綺麗な食事を提供する事ができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助や声かけを行い、異常があれば家族様に相談の上で受診または往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導に加え、本人様の訴えに応じて排泄介助・支援を行っています。	日中は個々のパターンで声かけしトイレ誘導されている。自立の方にはプライバシーに配慮し見守りで対応している。出来るだけ生活習慣を活かし、立位や座位で機能維持に繋げる様取り組まれると共に気持ち良く排泄できる支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給や、適度な運動、主治医による処方便秘薬等で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めてはいるが、本人様の希望または体調に合わせて入浴を行っている。また、冬至には袖子湯をしたりと入浴を楽しめるように配慮している。	週3回、午後となっている。職員体制が良ければ午前中の希望があれば柔軟に対応している。又、湯温やゆっくり入浴したい方等、個々の希望を大切にされ、入浴が楽しみとなる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを崩さぬよう、本人さまの体調に合わせて、日中の活動の支援を行っている。また、自宅で使用していた使い慣れた布団を持ち込むなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や家族様と連携し、職員全体で状態の変化等を共有し、主治医に報告できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割など楽しみのある生活を常に心がけている。読書が好きな方には、図書館に一緒に行き本を借りて読まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望を優先した、個別の外出をしている。また、定期的な外出行事も行っている。	四季の外出(お花見、紅葉、雛祭り)や希望で馴染みの神社、買い物等に出かけたり、少し遠出の世羅の道の駅や笠岡の道の駅等にも出かけられ、気分転換や楽しみごと、五感刺激となる支援に努めている。地域行事、散歩等にも積極的に出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理しているが、本人様が買いたいものなどがある際は、一緒に買い物へ行く支援をしている。また、もっておきたい方には定期的におこずかいをお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が変わりに行うことが多いが、希望がある際は柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間を広々使い、ゆったりと過ごしてもらっている。また、日当たりが良いので、自然光をしっかりと取り込むと共に、室温調節もこまめに行っている。	リビングには観葉植物やソファもあり、テーブルには季節の生け花が飾られている。リビングから居室への動線も死角がなく安全である。窓からの日差しが心地よく、明るく、不快な匂いもなく室温にも配慮され快適に過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや丸テーブルなどを使用し、快適な空間を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や趣味の絵などを飾り、自宅にいた時と変わらない空間を目指している。	本人の使いやすい収納ケース、また、寝具などが持ち込まれている。行事参加時の写真や観葉植物を置かれたり、それぞれの個性を活かし、その人らしさが感じられる工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一に自立支援の立場で、ケアを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらい				②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている	○	①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

事業所名:グループホームゆうゆう神谷川

作成日:平成 29 年 3 月 20 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	権利擁護に関する制度の理解や活用方法について、学ぶ機会を持っていない。	権利擁護に関する制度を理解する。	事業所内で権利擁護に関する研修を行い理解する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。